



**FUJI SABO通信**

# ふじあざみ

発行  
国土交通省中部地方整備局  
富士砂防工事事務所  
富士宮市三園平1100  
電話0544(27)5221  
http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/

**富士山直轄砂防30周年記念** シンポジウム「富士山の昨日・今日・明日」特集号

## 富士山の自然と保全



平成12年12月22日、富士山直轄砂防30周年記念事業の集大成として、シンポジウム『富士山の自然と保全』～世界に誇れるFUJI-YAMAを新世紀に伝えるために～を富士市ロゼシアターにて、富士山麓の住民の皆様を主に1,000人を越える方々が参加して開催しました。

第1部では登山家で医師、そして富士山御中道ぐるっと歩こう360度初代塾長の今井通子さんが、『中庸の徳を往く』をテーマに基調講演を行いました。

第2部は御中道めぐりの映像と『富士山御中道ぐるっと歩こう360度』に実施された専門家による富士山教室を編集したVTRを上映し、富士山の自然について学んだあと、パネルディスカッションが行われました。静岡での在勤中の6年間に20回も富士山に登った吉村秀實NHK解説委員をコーディネーターに、今井さんをはじめ浅間大社司司など多彩なパネリストによる『富士山の自然と保全』をテーマに、活発な討議がなされました。

### 基調講演 ちゅうよう とうく **御中道に「中庸の徳」を見た！**

**今井通子さん**  
 ■登山家・医師  
 ■ぐるっと歩こう360度塾長



日本には「心の山」富士山があり、いつでも登れる幸せを私たちは持っています。そして、富士山には温帯から寒帯までの多様な景色が凝縮されていますから、世界の山々を見たのと同じような登山ができます。スロバキアのドブシンスカ氷穴は富士風穴、カナダのホワイトマウンテンの針葉樹林帯は富士山の山裾に広がっている針葉樹林帯を彷彿させます。

ところで私は世界の山々を歩きましたが、美しいモンブラン山群などにも80年代から地球温暖化の影響と思われる氷河の後退が起き、93年にシャモニーで起こった大洪水の原因となっています。自然は確実に凶暴化しており、地球環境問題への取り組みが必要と感じています。

日本の象徴、富士山には大沢崩れという崩壊地があり、30年前から直轄砂防事業が始まり、18年前からは源頭部の調査工事が行われています。昨年大沢崩れとその工事現場を見るだけではなく、故事に倣って御中道めぐりをして大沢崩れをはじめ富士山のさまざまな面を学ぶ「ぐるっと歩こう360度」が企画され、私は塾長を引き受け、200名と富士山の中腹の多様性と大沢崩れのすさまじさを体験しました。第一日目の夕暮れの中、私は御中道めぐりの意義に気づきました。富士山を3回登った人が「大行」とし行こうこの修行は、人間はいつまでも本能的に頂上ばかりを目指すのではない、もちろん3回は頂上に登って人生の中で何かを成し遂げる必要があるが、その後人間だけの持っている文化とし、下も見据え上も見上げる中庸が大切なのだと。自然に對峙して歩くことでバランスの大切さ、つまり「中庸の徳」を悟るだろう。そして、これは世界に発信すべき日本の文化だと思いました。

富士山を巡る様々な問題に対し、地元のみならず日本中の人たちが、動植物も含め富士山についてまずもっと学ぶべきだと思えます。その過程で親しみが生じ、自然に対する畏敬の念や愛情が生まれてくるからです。実際にみて体験すると、保全の必要性や自分自身の役割がわかります。もっと富士山をみんなが自分の問題として考え、行動する輪が広がるといいなと思います。



カナダ(ホワイトマウンテン)

クロアチア(プリトビチェ)



# プログラム

## ■第1部

- ・主催者挨拶 実行委員長(富士宮市長) **渡邊 紀**
- ・主催者挨拶 富士市長 **鈴木 清見**
- ・来賓挨拶 静岡県副知事 **柴 順三郎**



主催者挨拶  
富士宮市長  
渡邊 紀氏



開催地挨拶  
富士市長  
鈴木 清見氏



来賓挨拶  
副知事  
柴 順三郎氏



閉会挨拶  
芝川町長  
白井 進氏

## ■基調講演

「中庸の徳を往く」**今井 通子**  
(登山家・医師・ぐるっと歩こう360度塾長)

## ■映像ほか

富士山教室「御中道ぐるっと360度」

## ■第2部

テーマ「富士山の自然と保全」

- |          |                                   |                                |
|----------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 出演者      | <b>今井 通子</b> 登山家・医師・ぐるっと歩こう360度塾長 | <b>増沢 武弘</b> 静岡大学教授            |
| パネリスト    | <b>宮崎 緑</b> 千葉商科大学助教授             | <b>薄木 三生</b> 環境省南関東東地区自然保護事務所長 |
|          | <b>渡邊 新</b> 富士山本宮浅間大社宮司           | <b>岡野 真久</b> 建設省中部地方建設局長       |
| コーディネーター | <b>吉村 秀實</b> NHK解説委員・富士常葉大学教授     |                                |
| VTR出演    | <b>小佐野 常夫</b> 山梨県河口湖町長            | <b>石川 嘉延</b> 静岡県知事             |

■閉会挨拶 芝川町長 白井 進

# 富士山教室「御中道ぐるっと歩

## 湧水教室



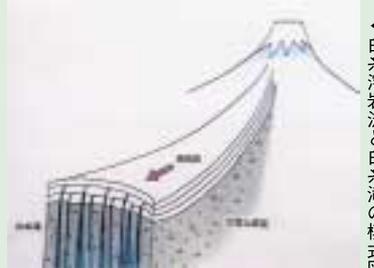
静岡大学理学部名誉教授  
土隆 一氏

富士山の裾野に浅間神社の湧玉池、白糸の滝などの湧水があるのは、富士山には川がないので降った雨はみんな地下に浸み込み、やがて裾野に湧き出てくるからです。

溶岩が何層も重なっている間のカサカサした部分を、上から浸み込んだ水が少しずつ押し出されるのです。岩の中を通過しますから、濾されてきれいで、温度と量がほぼ一定なので、少しずつ成分が溶け込んだようなおいしい水なのです。

最近湧き水が減っているのは、どちらかという使いすぎたため、問題は利用法です。

水量を多くするには、大沢崩れなども、できるだけ崩れないようにし、樹木を育てて土壌を豊かにし、ゆっくり地面の中に浸み込んでゆくような環境をみんなでつくっていくことが一番大切だと考えます。



▲白糸溶岩流と白糸滝の模式図

## 森林教室



立正大学地球環境科学部教授  
渡邊 定元氏

富士山は日本の植生垂直分布を見る絶好の場で、照葉樹林帯(350m~570m)、クリ帯(~900m)、ブナ帯(~1600m)、ウラジロモミ帯(~1800m)、シラベ帯(~森林限界)、高山帯という、植生がベルト状のゾーン(森林帯)に分かれています。

クリ帯にスギ・ヒノキが植林されておりますが、非常に間伐が手遅れになっており、防災水源涵養路網という、降った雨を全部地下に浸透させながら間伐を経済的に行う方法を開発しております。またブナ帯で、平成8年の風害の後に100年生のブナの樹冠に相当する面積をひとつのバッチとしてそのバッチの中心に、ブナをそのまわりに原生林を構成する樹種を植えております。

21世紀は「森づくりの時代」と言われておりますが、地球環境において、森づくりは地球の温暖化の抑止につながり、バイオマスという循環資源を私たちの文明社会に取り入れる基本的な技術を現状研究しております。



▲富士山の植生図

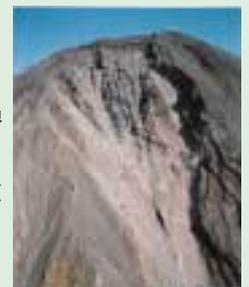
## 砂防教室

富士砂防工事事務所長 **花岡 正明**

富士山西斜面の大沢崩れは富士山最大、日本でも我国有数の崩壊地で形成の時期、過程は明らかではありません。溶岩と脆い火山砕屑物の互層が、一般的に土石流、凍状融解、風等に火山砕屑物が先に崩れ、不安定となった溶岩部が次いで崩れます。最も崩れているのが(8合目から9合目)標高3,200m~3,500mあたりで、過去30年間流出土砂量は440万m<sup>3</sup>・年平均流出量は約16万m<sup>3</sup>(ダンプ3.2万台)におよびます。絶えず崖部より崩壊する土砂が大沢崩れの谷底に一時堆積し、数年に一度土石流となって下流一気に流れ下ります。

富士山の土石流は以下の特徴を持ちます。(1)初冬や晩春に大規模な土石流が発生する。(2)流出する土石流は巨礫を含んだ土砂は、自動車なみの高速流下をします、1回が数十万m<sup>3</sup>と大量に流出する。

今年11月21日に発生した観測史上最大といわれる土石流も扇状地の遊砂地で28万m<sup>3</sup>の土砂をすべて止め、下流の災害を未然に防ぎました。



▲富士山大沢崩れ

# パネル展示で富士山の発見…。



1000人を超える参加者で埋まった。



# こう360度」

## 高山植物教室

静岡大学教授 増沢 武弘氏

私は富士山の荒廃地及び防災工事などの土木的工事により、一時的に自然がこわれた場所をもとに戻すときに、そこに元来生育していた植物を用いて復元を試みるという研究をしています。

フジアザミは富士山の砂礫地に自生する植物で、4~5年間で直径1mほどの大きな葉を地表面にひろげ、まっすぐな根を2m近く地中に伸ばします。成長が早く、根が杭のような働きをするため、砂防工事に最も有効で将来性があるものと考えました。

植物を用いて復元を試みる時、苗と種の確保が必要不可欠ですが、現在、富士砂防工事では大沢川の岩樋下流部と大滝に圃場を作り、富士山源頭部調査工事現場に植栽しています。



◀フジアザミの直根

## 雪崩教室



雪氷学会理事  
安間 荘氏

太平洋側にある富士山では雪の降るのが遅く、山腹が裸の状態です。地表が水を通さないため、上に積もった雪は雨や雪解け水などを含んで重くなり、一気に流れ出します。しばしば、ほぼ同じ高さのところから一斉に発生しますが、これがスラッシュ雪崩と呼ばれる、富士山特有の雪崩です。実際に被害を山麓に及ぼすような大規模なものは大体200年、あるいは100年に1回の間隔で起きています。江戸末期には現在の市街地にあたる地域まで大被害を受け、田子の浦港近くまで達しているものもあります。



◀1981年の東富士雪崩

## 火山教室



静岡大学助教授  
小山 真人氏

富士山は、約10万年前に噴火を始め、成長の過程で崩壊と成長を繰り返してきました。1万年前からやや活動形態が変わって、富士市、三島市まで大量の溶岩を1万年から9千年くらい前に流し、その後、主に山頂の噴火と、山腹噴火を繰り返してきました。歴史時代以後は古文書の記録と、地質と絡め、噴火の様子が良く分かっています。富士山の噴火が盛んだった平安時代には、青木ヶ原溶岩など北麓に大規模な地形の変化が起きましたが、富士山はわりと穏やかな噴火が多いのです。ただ1707年の「宝永の噴火」は、溶岩を流さず大量の火山灰だけを噴出し、特に変わった爆発的な噴火でした。

次の噴火については、場所が特定できず、また宝永の噴火が全く異質の噴火であったため、形態を予測することが難しいのですが、ただ事例が多く「癖」が押さえられています。将来の災害を予測するハザードマップはまだ富士山ではできていないが、近い将来はまとめられると考えます。



◀宝永の噴火口

# 世界に誇るFUJI-YAMA



NHK解説委員  
富士常葉大学教授

コーディネーター 吉村 秀實氏

## 美しい富士山を21世紀に

NHKが今年21世紀に残したい日本の風景を募ったところ、富士山が断然トップでした。日本人が愛し、心のよりどころにしてきた美しい姿を、世界の人たち、そして、21世紀の子供たちに伝えるのは私たち世代の責任です。20世紀は科学技術を礎に、経済や社会環境は大きく変貌しましたが、今の快適な生活環境は、自然の犠牲の上に成り立っているケースも少なくありません。富士山もその例外ではなく、富士山と人との関わりも変化してまいりました。

去年のシンポジウムでは、昭和44年以来実施した直轄砂防事業を振り返るとともに、さまざまな立場の人々から富士山に対する思いを語っていただきました。新世紀を10日後に控えた本日、富士山の環境を保全しつつ、山麓地域の安全で豊かな暮らしを目指す取り組みを紹介しながら、いずれも論客ぞろいのパネリストと会場の皆さま方も一緒に、「富士山の明日」について考えてまいります。



医師・登山家  
ぐるっと歩こう360度塾長  
富士山大沢崩れ  
研究会メンバー  
12月はヘリで  
大沢崩れを調査。

今井 通子氏

## 楽しみながら環境を学び行動する

防災に関しては災害を被りそうな場所に住まないことを基本と考えますが、例えば、大沢の谷から上に見える不安定な大きな岩盤は、自然を伸び伸びさせてよいとは思えず、町田先生、渡邊宮司と白旗さんの間で、虫歯の詰め物のようにでもいいから、少しの手は入れるべき。しかし技術で自然を封じ込めることは、人間にはそんな技術も力もできないと考えます。

地球温暖化については70年代のヒマラヤ登山の際、気象がおかしいと感じていましたが、科学的証明される頃はすでに手遅れにならなければ良いが。大沢崩れで90年代から11月に土石流が頻発し始めたのも、温暖化との関連が懸念される。

現在はマラソンとコンサートや森林グッズの製作などと自然学習を一緒にした森林走遊学大会を実施しています。楽しみながら環境を学び、地元の方々と行動する人々の交流の輪が広がり、山に対して環境保全に関わる活動をやりたいという若い人は増えている。将来富士山でも森林走遊学や生態系維持林作りの植林などを実施したい。環境教育の場としての富士山の利用はきっと保全にも役に立ち、「御中道360°めぐり」は是非続けて、日本の文化として世界の人たちに紹介したいと思っています。



千葉商科大学助教授  
11月には、富士砂防管内を  
視察して頂きました。

宮崎 緑氏

## 自然と人間の営みを考える「文化」

大沢崩れは崩れるに任すか止めるべきか、または生態系と人間の営みによる変化、それをどういうスタンスで考えるかがまさに文化だと思います。

都会に住んでいると富士山をやや離れたところから眺めているので、至近距離で見る住民の感じ方と、富士山の保全についても温度差があるというのは否めない状況だと思います。それをいかに縮めるかがとても大事で、高度情報通信社会で情報はあふれるほどあり、関係者も情報を一生懸命発信していると思うのですが、受けての側に意識がなければ価値のある情報でも雑音にしかならない。どう実感を持たせるかが大きな課題で、扇状地に参りましたらリサイクルポットの苗木に、子どもたちの思いのメッセージ、未来への夢の寄せ書きがありました。こういうちょっとした工夫が、身近な問題として考えるきっかけになると思います。

人間が自然に対峙するというのはあまりにも傲慢です。ほんのちっぽけな自然の一部にしかすぎない人間が、自然の大きな生態系の懐に抱かれて、どのように生き、文化を紡いでいくのか、そういう発想が大事ではないかと思います。



富士山本宮浅間大社  
宮司

37年奉職され  
富士山に住まうこと  
1900日。

渡邊 新氏

## 山の気を読む感性を失った現代人

古代の日本人は、常に森に抱かれて森の精霊とともに暮らしていました。しかし、山岳仏教が入り古神道と合体して、富士山が生活の山から信仰の山に変わっていきました。

富士山が活動していた縄文時代、山の民だった古代人は災害があれば移動し、神の怒りに触れないところを住みかとしていました。山の気を読むといいますが、自然と共生する感性のようなものが備わっていました。しかし、やがて山の活動が弱まってくる弥生時代以降、農耕社会に入り定住して、所有の欲にかられて災害の発生しやすい領域にも入り込んでいき、山の自然の怒りに触れる。このころから人間は知恵と技術で何でもできると思うようになってくるわけです。

自然と共生するということは、やはり慎みの心を持って住むということ、これが現在は薄らいできています。山が平らになるのは自然の道理でありまして、道理に逆らうとけがをするのも道理だということを、現代人は知らなければならないと思います。

富士山の神様は女神様で「外面女菩薩、内心女夜叉」、外から見るときれいな富士山も中には、恐ろしいものが潜んでいると考えなければならない。

# を新世紀へ伝えるために

## パネルディスカッション

### 6人の論客が熱い意見を語る!!



静岡大学理学部  
生物学科教授理学博士

#### 増沢 武弘氏

#### 地球温暖化と山頂の永久凍土とコケ

温暖化の証拠を具体的、科学的に証明するのは過去のデータをしっかり把握しなければならず、たいへん難しいことと思います。富士山では、温暖化の影響が山頂のコケにあらわれていると言われています。コケの被覆が増えたことがその理由です。山頂の岩場の永久凍土が解けて水分が供給されコケを維持しているのではないかと考えられます。

日本列島には富士山と北海道大雪山しかないと言われている永久凍土の分布を、地中温度を測定することにより、その位置を確認しました。その結果から約30年前と比べて、標高にしてほぼ100mくらい永久凍土の下限が上昇していることがわかりました。当時の大学院生だった藤井さん（現在、極地研教授）が測定した記録があったからこそわかったことです。環境の変動を把握するためには、観測・調査し記録することが重要なのです。

富士山麓の森林の荒廃はずいぶん前から指摘されてきましたが、その一番の理由は、人工林の手入れ不足でした。富士山本来の天然林の復元に伴う諸々の問題に対し、復元の意義、目標とする植生、維持管理および実施体制に対する責任・役割の分担、苗木の調達など、さまざまなことを具体的に抽出・整理し、構築したのが「富士山100年プロジェクト3776構想」です。富士山には解明されていないことがまだまだたくさんあり、現在の状況をデータで正しく残すことが非常に重要です。



環境省自然環境局  
南関東地区  
自然保護事務所長

#### 薄木 三生氏

#### 富士山の利用実態と自然体験の「場」の提供

富士山には年間25万～30万もの人々が登っており、7月～8月に集中し、目的、年齢層など特殊な状態にあります。自然保護に関する富士山の最大の問題はゴミと尿尿問題の2つで、この発生源はほぼすべて人です。ただアンケート調査の結果を見ると、トイレの有料化の意識が高まっていますが、支払ってもいい金額に対する集金額は1/3です。新環境基本計画に則り、富士山で山岳トイレを自然エネルギー導入に関わる試験施設ができるかもしれません。

若い人の自然体験活動や、自然混交林復元の植林活動が重要なのですが、地元の民間ボランティアや子供たちが参加できる「場」を提供すべく、林野庁をはじめ、静岡県、山梨県のボランティアセンターが設置されています。さらに、今年7月全国にさきがけ富士宮市田貫湖に環境省の「ふれあい自然塾」が開設され、自然保護団体のサポートをいただいております。



国土交通省  
中部地方整備局長

#### 岡野 真久

#### 安全で緑豊かな山麓空間に

大沢崩れから生じる土石流に対して、当面の対策として大沢扇状地の安定化を、30年の直轄砂防事業により約100haで150万㎡の土石流を捕捉する遊砂地の整備がすすみ、20万㎡を超える土石流もたびたび発生しましたが、安全に堆砂させることができるようになりました。

長期的な課題として大沢崩れ拡大防止のために、昭和57年から調査工事に着手し、この結果により今後の対応を検討し決める予定です。また、災害を未然に防ぐため、土石流の流出を検知し伝達する土石流の集中監視体制が整備されています。

従前から植生を積極的に導入してきましたが、小中学校の生徒とリサイクルポットを用い、環境教育も含め砂防樹林帯造成を進めてまいります。また、富士山を囲むよう展開する市街地を、土砂災害からやわらかく守る樹林帯構想を研究しています。

21世紀においては安全で豊かさを実感できるまちづくりが望まれますが、安全面では、噴火対策を含めた火山砂防対策の策定、特にハザードマップの作成が重要です。そのために行政が持つ防災情報の日頃からの住民への提供が必要になります。検討中の砂防樹林帯は、日常的には自然の豊かさを楽しむ場として利用できます。



シンポジウムにおけるVTRメッセージ

静岡県では富士山を後世にいい環境のもとに残していくため、体系的な取り組みが必要だと、平成8年に「富士山総合環境保全指針」を定めて、環境対策を総合的に展開しています。その柱の1つ「富士山100年プロジェクト3776構想」は、特に戦後人工林に切り替えられた富士山麓の森林が、今日いろいろな問題が起こっており、この人工林を以前あったような自然木に植え替えようというものです。

県知事  
**石川 嘉延氏**

高さを象徴して3776haと言っているんですが、年々ボランティアをはじめ日本中の方々の協力の輪が広がりつつあります。取り組んでいただく一人一人の活動量は小さくても、みなさんが輪になりますと、ものすごい力になります。是非多くの方に参加をお願いしたいと思います。



山梨からのメッセージ

観光で訪れた方が、富士山の全容が見えたときには合掌する光景をよく見かけます。日本人の心から離れられない存在であると思います。

河口湖町長  
**小佐野 常夫氏**

富士山憲章は、静岡・山梨の両県で、平成10年11月に制定され、住民へのPRに努めていますが、今後も日本国民に大きく訴えられるものが欲しいと思います。かけがえのない富士山を大事に後世につないでいくため、河口湖町では、乱立している看板等の統合整理、グリーンミュージアム展開、月見草などによる緑化、蜜の再生などを進めているところです。自然環境あるいは景観の保全に鋭意取り組み、最終的には世界遺産への登録を目指し、住民も立ち上がる時期にあると考えます。

どうする大沢崩れ

大沢崩れ研究会メンバーがヘリコプターで富士山を視察



美しい富士山がどういう過程で形成されたかを、私は地形と地質から調べてきました。富士山は成長と破壊を繰り返して今日に至りました。大沢崩れは新しくできた崩壊の激しい谷ですが、これとは別に、山頂部がなくなるような大崩壊が起こり、その噴出物で埋められました。

東京都立大学  
名誉教授  
**町田 洋氏**

人間はいつまでも今のままの富士山であって欲しいと願うのですが、変わっていくのは自然の摂理というものです。砂防工事で安全のようにみえ人の利用する地域が拡大すると、むしろ災害を受けやすくなります。



私は富士山の麓で生まれ、撮影の仕事上、もう何十年も通っているわけです。大沢崩れに土煙が上がっているのもよく見ますが、それだけにその拡大が気になります。ヘリで間近で克明に見ますと、今まで自分が考えていた以上に、自然の脅威というより、崩壊の凄まじさ、進行の速さに驚きました。

山岳写真家  
**白簾 史朗氏**

富士山は非常に大切なものだ認識しており、大沢崩れはどうしたらくい止められるか、真剣に対していかなければならないと思います。国や県と力を合わせて、日本人として、世界に誇る日本の富士を守って行きたいと思います。

シンポジウムのまとめ

コーディネーター **吉村 秀實氏**  
(NHK解説委員・富士常葉大学教授)

本日は、多彩な6名のパネラーから、まず「私たちにとって富士山はどういう存在か?」、富士山の自然への負荷の現状と保全のあり方」についてお話をうかがい、大沢崩れ対策などの防災対策のあり方や、トイレから地球環境に至る富士山への負荷と問題点、富士山にふさわしい森づくり、まちづくり等に対して活発な議論があり、最後に「新世紀に向けての課題と提言」をいただきました。

富士山の自然を保全するためには、私たちは一人ひとりが富士山をもっとよく知ることがまず必要ではないかと感じます。富士山に関するさまざまな情報を広く発信して、みんながその情報を共有することになりますと、富士山に対してより親しみがわき、富士山の恵みに感謝する気持ちもより深まるのではないのでしょうか。

私たちが、それぞれの立場で今できることを直ちに行動することを提案し、本日のシンポジウムのまとめといたします。



シンポジウム参加者の声

今回のシンポジウムについてのご意見をいただきました。

(紙面の都合上、要旨のみとさせていただきます。)

富士山を保全することは、地域住民をはじめ多くの人々と一体になって進めるべきだと思います。事業に参加して、自分達の暮らしを守り、自然を大切にすることを育てるならば世代を問わず人間形成に役立つものと信じます。  
**渡辺政夫 富士市五十雀山歩会**

植林・フジアザミによる砂防・森づくりの必要性、尿尿・ゴミ処理対策、災害・砂防の歴史、世界で使える砂防新技術開発、有限の地下水問題等、21世紀に私たち一人ひとりが積極的に関わっていかねばならない環境保全問題を確認しました。  
**中田保男 富士宮西高等学校教諭**

今回のシンポに参加して多くの富士山に関する情報が得られ有意義であった。最も共感を受けたことは、今井通子氏より富士山の植生は外国の山と共通していること、富士山を後世に永遠に美しく残すには、常日頃富士山に関する自然、文化を学ぶことの大切さ等であった。  
**富士山ナショナル・トラスト 柏木伸夫氏**

日本における富士山の持つ精神的、文化的な面に加え、環境面の現状とその対応状況について専門家による解説とVTR等により出席者に富士山を理解させる役割は大きかったと思われる。

多くの方がもっと富士山を理解し、富士山の自然環境を守っていくためにはこのようなシンポジウムの果たす役割は大きい。是非もっと多くの地域で、かつ、数多く開催してほしい。  
**酒井直彦 富士常葉大学教授**

一人ひとりの力は微力であるが、自分達でできる小さなことから実行し、大勢の力を結集して富士山の保全のために積極的に参加協力していきたいとの意を強くしました。  
**高橋芳久 富士市駅南コミュニティ推進会長**

基調講演、富士山教室、パネルディスカッションは、富士山の誕生から歴史、自然、砂防対策の全容を映し出し問いかけられているように思われ、より一層富士山の自然の神秘や貴重な財産であることを再認識し、興味と関わりを持って行きたい思い一念を投じております。  
**堀内剛気 山梨県河口湖町建設課長**

## 第5回

# 富士山への手紙・絵コンクール



▲表彰状を授与する村松審査委員長

## 表彰式・講演会

“あなたの心を富士山へ”と題した平成12年度第5回『富士山への手紙・絵コンクール』の表彰式ならびに記念講演会が、昨年12月3日に富士宮市民文化会館にて開催されました。

今回はスペインやロシア、カナダなど海外9カ国からの応募を含め、北は北海道、南は沖縄までの44都道府県から7,313点の作品が手紙部門と絵部門に寄せられました。10月27日の最終審査には委員長に作家の村松友視先生をお迎えし、最優秀賞、優秀賞、佳作、郵便局特別賞が選ばれました。また展示室に応募絵画が全て展示されました。なお、絵画の入賞作品を用いてカレンダーが作成されます。

## 最終審査



村松審査委員長

### ■総評

#### ●絵部門

#### 橋本審査委員

特に、絵画塾の先生の指導による図案が、幼児期の子供の中にある本来の自由さを失わせているという影響が年々迫って目立ってきました。今回はその中でも“素直”な感性を軸に選んでみました。中学、高校・成人の作品でも、正攻法の作品らしい作品が選ばれたと思います。

#### ●手紙部門

#### 村松審査委員長

富士山と、実際つきあった手応えが大事だと思います。特に、小学生低学年では、そういう子供らしい感受性を基準に選びました。また、富士山と親しんでいる地方の子供が、遠い、富士山と縁のない土地へ根ざして、あらためて富士山の力を知るというアングルも面白いと思いました。富士山を通して、父親の大きさを発見し、成人の中の素直さにも新鮮さを感じました。また、今年は高齢の方々からの多くの応募があり、心強く感じました。

## 記念講演

宮崎 学氏(自然界の報道写真家)

土門 拳賞受賞

お住いの信州を中心に、北海道や都心で、時には自動撮影のロボット・カメラを用いてとらえた野生動物生態の数多くの写真を駆使して、わかりやすく、説明力をもって自らの自然観を1時間に凝縮して語られました。



## 時間のうつろいと自然動物たち

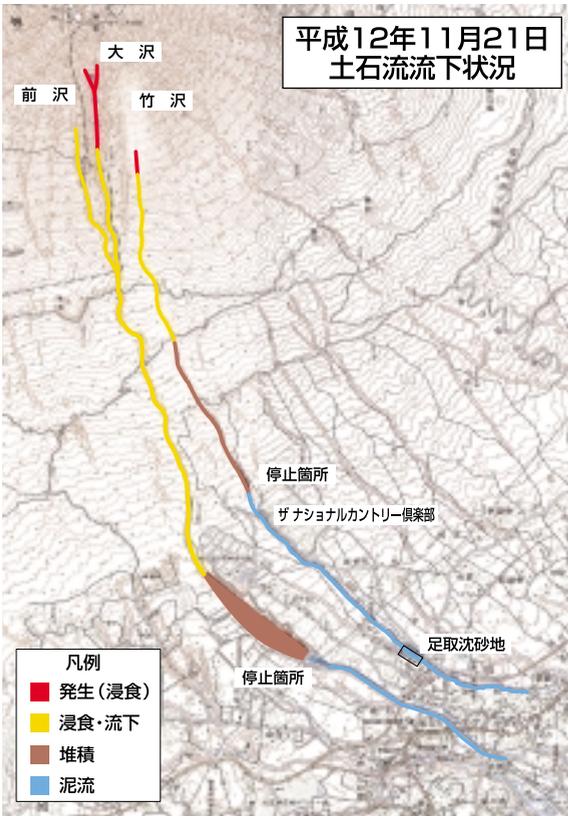
自然のなかで、特にライフサイクルの短い野生動物に環境の変化や人間への影響に関わるサインがひそんでいます。

誕生の数だけ死があり、命のつながりが環境をつくっています。人間は自然の時間と場所の一部を借りて、自然に守られていることを自覚し、いい環境を子どもたちに継承することが私たちの役目だと思います。



# お知らせ

## 平成12年11月21日 土石流の第2報「足取川の上流 竹沢で土石流発生」



▲流木を巻き込みながら流下停止状況



▲巨石を流下させた谷底状況

前号で速報しました、富士山大沢川で発生しました土石流の測量・解析結果の中間報告をリーフレットにまとめました。扇状地堆積量は28万㎡、21日午前3時10分から10分間で17mmを記録する集中豪雨があり、発生メカニズムについて現在調査解析中です。

一方、足取川支川の竹沢で発生した土石流は、巨石を含み高速で流下しながら、渓流の谷の樹木をなぎ倒し流下しました。発生地点は標高約2,200m、流下距離約5.8kmで北山・上井出両林道を破壊・寸断し、標高約850m付近で停止しました。堆積量は約17,000㎡で、下流の足取沈砂地には泥流だけが流れ込み下流域には被害がありませんでした。平成8年3月30日に風祭川で発生した土石流に比べ、巨石や流木を多量に含む規模の大きい土石流でした。

省庁  
改編

## 国土交通省 誕生!!

生き生き、安心を提供し、  
活力ある地域づくりを実現!!

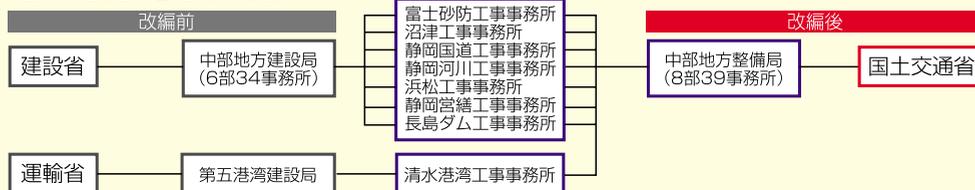
建設省から国土交通省へ移行 平成13年1月6日

統合のメリットを生かし、無駄なくスピーディーに、より質の高い行政サービスを提供。

当事務所の正式な名称は国土交通省中部地方整備局富士砂防工事事務所となりました。

国民の一人ひとりが安全で、快適な暮らしを営むために、身近な社会資本の総合的な整備、交通政策、気象業務ならびに海上の安全確保を目指して、平成13年1月6日に北海道開発庁、国土庁、運輸省及び建設省の4省庁が統合し、国土交通省が誕生しました。中部地方においては運輸省第五港湾建設局と中部地方建設局が統合し、中部地方整備局となりました。

■省庁改編に伴う静岡県内の主な出先機関の改変



地方整備局は、従来行っていた業務の外、本省等から新たに委任される国土計画・地方計画の調整、各種補助事業、建設業・不動産業等の業行政、土地収用の事業認定、都市行政、住宅・宅地行政等と第五港湾建設局の行っていた業務を行い、この地域のきめ細かい社会基盤の整備を通じて“夢と活力ある中部地方”のため、大きな役割を担うこととなります。富士砂防工事事務所の業務は従来と変わりませんが事業を推進できるよう地域の皆様の暖かいご理解とご支援をお願いします。

## 情報提供のお願い

富士砂防が関係する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

<連絡先>

富士砂防工事事務所

担当/建設専門官・大石、または調査課長・時田まで

**TEL0544-27-5221** (内線516、351)

<お問い合わせ先>

■国土交通省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>  
(省庁改編に伴い、変更となります。)

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL0544-54-0236